

【総合計画】

重点的方針	気候変動対策による持続可能なまちづくり
概要	地球規模の環境問題が深刻化する中、町民一人ひとりが「地球規模で考えて、足元から取り組む」意識の向上と行動の変容に向け、様々なパートナーシップのもとで取り組みます。 「脱炭素社会」や「循環型社会」の実現、生物多様性の保全などの各取り組みに際し、従来から取り組んできた町民・事業者・町による協働の促進だけでなく、未来を担う子どもたちを巻き込んだ二宮らしい体験型の環境教育・保全活動を充実させます。 また、公共施設の新築、更新にあたっては、再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ施設の導入について、積極的に推進していきます。 これらの緩和策に加え、気候変動に伴う影響から生命や暮らしを守るため、豪雨を起因とする災害に対応する都市基盤の維持・強化や新たな感染症対策など、国や県との連携も強化しながら適応策を進めます。

【総合戦略】

関連する総合戦略の基本目標	
－	
関連する総合戦略に位置付けた施策	
施策番号	施策名
施策1-3	豊かな環境の保全と気候変動対策の充実

No.	関連する主な予算等事業	戦略 該当	トータルコスト（千円）				庁内評価（2次評価）			
			R5	R6	R7	R8	R5	R6	R7	R8
1	環境保全推進事業（環境学習、地球温暖化防止運動の推進等）	○	5,766	4,600			適当・要改善	適当・拡大		
2	ごみ減量化・再利用事業	○	10,459	10,664			適当・拡大	適当・維持		
3	道路維持管理経費	○	157,997	195,952			適当・維持	適当・維持		
4	管路建設改良費	○	181,698	261,726			良好・維持	良好・維持		
5	防災施設維持管理経費		11,185	11,235			適当・維持	適当・維持		
6	救急救助活動経費		11,065	16,450			良好・維持	良好・維持		
7	美化推進事業（530キャンペーンの実施等）	○	2,115	2,424			適当・維持	適当・維持		
－	その他		1,105,936	1,338,778						
合計			1,486,221	1,841,829	0	0				

※達成状況：A 達成（100%以上）、B 概ね達成（70%以上）、C 充分とは言えない（50%以上）、D 未達成（50%未満）

関係する主な重要業績評価指標（KPI）							
指標名		基準値	R5	R6	R7	R8	達成状況
環境に関する啓発イベントの実施数	計画	4	3	2	2	2	A
	実績		3	3			
「地球温暖化・気候変動」の認知度(%)【総合戦略】	計画	89.9	91.0	92.0	93.0	94.0	B
	実績		74.4	86.6			
1人1日当たりのごみ排出量(g/人・日)	計画	816	807	803	798	798	A
	実績		768	748			
下水道整備面積(ha)	計画	418.6	423.5	427.8	432.1	436.4	B
	実績		423.5	426.1			
救急隊員の教育研修(訓練)実施数	計画	12	12	12	12	12	A
	実績		16	18			
災害別救助マニュアルの整備数	計画	－	0	1	1	1	A
	実績		0	1			
環境保全活動体験型イベント等の実施回数(回)【総合戦略】	計画	8	8	8	8	8	A
	実績		8	8			
省エネ型施設、再生可能エネルギーを導入する施設数(施設)【総合戦略】	計画	2	6	8	10	12	B
	実績		4	6			

令和5年度	成果	・「エコフェスタにのみや」や「ふるさとまつり」において、環境PRブースを設置し、普及啓発活動を実施した。 ・小学生を対象に町指定ごみ袋に掲載する標語の募集や「食品ロス削減月間」に合わせた広報の他、多量排出事業者に対するヒアリング及び指導を実施した。 ・下水道整備面積は計画どおり進捗しているほか、水洗化率も、着実に上昇し、安定した事業運営につながっている。 ・災害別救助マニュアルの整備に向け、災害種別に沿った対策を検討した。
	課題等	・環境PRブースは、来場者の関心を惹くための工夫、行動の実践に繋げるための工夫を検討する必要がある。 ・計画目標のうち、「資源化の目標」が未達なため、引き続き、ごみ排出量の削減等を推進する必要がある。 ・事業計画区域の94.3%について整備が完了しているが、未利用地や私道については土地所有者の意向等により整備が行えない箇所があり、今後も積極的に土地所有者への周知に努める必要がある。 ・近年頻発する豪雨等の自然災害に対応するため、近隣市町村との連携訓練等も検討する必要がある。
令和6年度	成果	・「エコフェスタにのみや」や「ふるさとまつり」において、環境に関する普及啓発活動を実施したほか、子どもを対象として出前授業や環境教室を実施した。 ・町民・事業者・行政で構成した「にのみや気候市民会議」を開催し、市民提案書をまとめたとともに、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定、「ゼロカーボンシティ」の表明を行った。 ・「食品ロス削減月間」に合わせた広報の他、多量排出事業者に対するヒアリング及び指導を実施した。 ・下水道整備の実績は計画値に届かなかったものの、概ね計画どおりの整備が行えた。 ・救急救命士5名に対し再教育実習（病院実習）を実施した。医師等による救急活動における事後検証を実施した。 ・一般住宅等における特殊災害活動マニュアルを作成した。
	課題等	・町民の環境行動を実践に繋げるための啓発の工夫を行うとともに、事業の効果や効率化を検討する必要がある。 ・地球温暖化対策については、市民提案書等の意見も参考にしながら、計画に基づき具体的な取り組みを検討する。 ・多量排出事業者への指導等を強化することにより、今後も継続的にさらなるごみ減量化に努めていく必要がある。 ・道路構造物等については老朽化が進行している状況であるため、安全面を重視しつつ適正な維持管理に努める必要がある。 ・台風接近時や冬季は情報伝達に困難な状況が見られ、緊急度や重要度に合わせた多面的な情報伝達のあり方を引き続き検討する必要がある。 ・事業計画区域の94.9%について整備が完了しているが、残りの土地の多くは未利用地や私道であり、土地所有者の意向が整備の実施を左右するため、今後も引き続き土地所有者の下水道に対する理解を求める必要がある。 ・指導救命士を養成し教育指導体制を充実させる必要がある。

※評価「A：十分な成果があった」「B：一定の成果があった」「C：あまり成果がなかった」「D：成果が得られなかった」

内部評価（評価・理由等）	
B：一定の成果があった	・地球温暖化防止の取り組みについては、町民・事業者・行政で構成した「にのみや気候市民会議」にて、多様な立場の人々が意見を交わすことができたため、幅広い対象者に対して環境意識の向上や今後の取り組みの活動意欲の醸成が図られた。また、それらの意見を踏まえ「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定、「ゼロカーボンシティ」の表明を行った。今後は計画に基づき具体的な取り組みを検討する。 ・都市基盤の維持・強化については、日々のパトロールや地区要望などにより安全性を優先とした適正な管理を行っている。今後も予測不能な災害の発生が考えられるため、柔軟な対応が可能となるよう、日々の備えと国・県などの様々な団体との連携強化に努める。 ・下水道整備の実績は計画値に届かなかったものの、概ね計画どおりの整備が行えた。 ・救急現場活動や救急救命士の診療の補助による医療行為など、救急医療全般の質の向上が図れた。 ・日常的に一般住宅等で起きるNBC災害（防護措置を要する化学災害などの特殊災害）に対して、マニュアルの作成などといった基本体制が整備された。